



ろうばいの丘（飯山）（撮影 阿部会員）

令和4年3月号 Vol. 215  
(2022年)

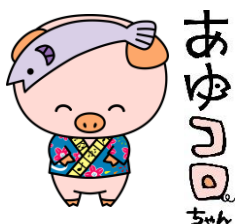
発行：令和4年3月5日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス [atugikanvola@yahoo.co.jp](mailto:atugikanvola@yahoo.co.jp)

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 澤田 正弘



会員投稿

《 ガイドは「ア・カ・シ・ヤ」 》

眞野 晃一

先日の新人勉強会「神社入門編」講座の終盤に、私が考えるガイド時のポイント「アカシヤ」について少しお話させていただきましたが、時間の関係で言葉足らずもあり、編集長から新入会員さん向けに補足解説しては如何とのご依頼がありましたのでまとめてみました。

ガイドはお客様の「今日は楽しかったよ、新しい発見があったよ・・・」等 見て聞いて感じるお手伝いをさせて頂く事が大事な役割だと感じていますので、私は記憶に残る楽しいツアーを目標に「ア・カ・シ・ヤ」を意識してご案内するようにしています。



「ア」は 「相手をよく見る」 お客様をよく観察することです

ガイドする相手の方、お客様がどんな方なのか、どんな事に興味を持っていそうな方々なのかの観察、確認です・・・相手を知ろうです。

- ① 開始前の集合場所でのお客様との会話場面も貴重な情報収集タイムです、積極的な方か話し好きな方か、等々。
- ② 事前申込の団体の場合は団体の特性などを予め調べて関係する話題を探しておくとういと思います。
- ③ お客様の興味や関心事に合わせたガイドが出来れば  
・・・お客様の満足度は一層上がります。
- ④ ガイド自身もお客様から観察されています、  
・・・「おもてなし」には **第一印象と笑顔**が大切です。
- ⑤ スタート前でも緊張感を持って、自身の不用意な発言や言動には注意するようにします。

## 「カ」は 「語りかけるように」 お客様との距離感を縮める話し方です

やさしく解りやすい言葉（単語）と 出来るだけ聞きやすい声を意識して使うようにしています。

- ① 口調は優しく、ユーモアを交えながらも、共感を得られやすい言葉を使うようにしています。
- ② 語りかけと問いかけを使ってお客様との間に一体感を作る・・・マイチームを編成する気持ちです。
- ③ 言葉使いや立ち居振る舞い、礼儀はいつもお客様に観察されていますので細心の注意が必要です。
- ④ お客様へのアイコンタクトで「そうですね・・・」と返答はいつも承認で、否定はしないようにしています。
- ⑤ ガイドは授業や講義ではありませんので話し方や質問の仕方にも注意するようにしています。

## 「シ」は 「しゃべりすぎには注意」 したほうが良いと思います

自分で苦労して調べた事や新たに仕入れた知識等、情報が増えれば増えるほど、また準備すればするほどしゃべりたくなります。

- ① 準備段階での苦労はお客様には関係のない事です。ガイド自身がしゃべりに自己陶醉しないよう注意しています。
- ② 人に伝えたい話し方は あれもこれもと欲張らないで、的を絞って、「解りやすくまとめた事を、聞きやすい声で話す」事だそうです。
- ③ ガイドもポイントを絞って、その時、その場所での話題を「限られた時間で」提供することが大切です。

## 「ヤ」は 「止め時<sup>や</sup>」 を考えておくことです

ガイドに熱が入れば話は長くなります。お客様の聞く態度や関心度合等をよく観察して、話題の切り上げ時が大切です。

- ① ガイドシナリオに進行に合わせた、あらかじめ省略可能部分や圧縮部分を考えておくとういと思います。
- ② 説明の一部を省略しても、お客様はガイド用の原稿をご覧になっている訳ではないので、気にはならないものです。
- ③ 気になるのは、シナリオ作成のガイド本人だけです、自分のシナリオにこだわらず、途中でも切り上げることが必要です。
- ④ 常にお客様の状況に気を配りながら安全確保や移動のタイミング等、ツアー全体の時間管理がガイドでは重要になります。



以上は あくまでも眞野流のガイド時のポイントです、参考になるところがあればご利用していただいて、新人の皆様お一人お一人がご自分の個性に合った自分流のガイドスタイルを組み立てて頂ければと思います。会にはたくさんのベテランガイドの方がおいでになりますので、いろいろな方のガイドをお聞きになって、皆様が一日も早いガイドデビューを実現されますよう、ご活躍をお祈りいたしております。



神奈川県「観光かながわNOW」に当協会から、NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に關係する投稿を行いました。その内容を紹介いたします。(編集担当者)

## 「厚木の安達藤九郎盛長の墓とゆかりの地」

投稿者：三平與志子

厚木は神奈川県県央部に位置しています。今 NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の1人で「安達盛長」の墓と伝えられている場所が2か所あります。

### 安達藤九郎盛長（1153～1200）

源頼朝が伊豆（蛭ヶ小島）の流人時代から仕え、頼朝の乳母・比企尼の娘を妻に迎え、京都にも知り合いが多く朝廷の情報を伝え頼朝と北条政子の間を取り持ち側近で働きました。官職には就かず頼朝時代に十三人合議制に参加していました。晩年剃髪して蓮西と号し正治二年六十六歳で亡くなりました。

#### 1) 飯山郷

金剛寺は華嚴山遍照院金剛寺と言い開基は弘法大師と伝えられています。



江戸時代 明和7年（1770年）  
建立の金剛寺 大師堂

平安時代後期の「木造阿弥陀如来坐像」国指定重要文化財と正安元年（1299）作の「木造地藏菩薩坐像」県指定重要文化財、鎌倉期の銅碗など市指定有形文化財があります。

金剛寺（現在は曹洞宗）は平安時代には金澤称名寺・鎌倉覚園寺・京都泉涌寺と深いかわりを持ち、鎌倉時代の『吾妻鑑』に記載もある中世の相模国では律宗の中心となった寺院で、江戸時代建築の大師堂も残されています。

大師堂脇には安達盛長の墓と伝えられている石造物群があり、当寺には位牌が安置されています。頼朝の側近で鎌倉の長谷に住んでいた安達盛長は当寺を訪れており、後に遺骨が埋葬されたと伝えられています。

新編相模国風土記稿では、『安達藤九郎盛長墓 五輪の塔なり 寺伝に法名「盛長院三空道無大居士」と号す、治承の頃盛長当地に來たり靈地なるを感じ、卒後其遺骨を送りて葬すと云う』と、記載されています。



金剛寺の安達藤九郎盛長墓  
宝篋印塔・五輪塔



坂東三十三観音 第六番札所  
飯山観音 観音堂

金剛寺に隣接して、飯山観音長谷寺があります。安達一族は、幕府から秋田城介の職を賜り、頼朝によって坂東三十三観音の観音堂の造営を命じられたともいわれています。第六番札所の長谷寺は通称飯山観音と呼ばれ“飯山の観音さん”“縁結びの観音さん”と言われて親しまれ巡礼者など拝観客が訪れます。春の桜やアジサイ・秋の紅葉など花と自然を楽しむことができます。

## 2) 三田郷

三田地区には鎮守様八幡神社があり創建は不明ですが建久三年（1192）に安達盛長が鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請して再建したと伝えられています。

その後明暦四年（1658）再建され現在の本殿は元禄三年（1690）旧領主旗本川口氏の寄進により建造されました。



安達藤九郎盛長が勧請再建したと伝わる三田の鎮守 八幡神社



三田十軒村の安達藤九郎盛長の墓と伝わる宝篋印塔・五輪塔

八幡神社近くの十軒村集落に安達盛長の墓と伝わる1

1基の石造物群 宝篋印塔と五輪塔があります。この中に紀年銘のある宝篋印塔には「昭林禅門応永廿五年（1418）二月三日」と刻まれています。「安達盛長」は三田の地を領していたとも伝えられ追福の為に建てたものと思われます。

新編相模国風土記稿には、『建久の頃は安達藤九郎盛長領主たりしと云い傳ふ 盛長が墓村内にあり。八幡社 村の鎮守なり、安達藤九郎盛長勧請すと云い傳ふ』と、記載があります。

「観光かながわNOW」特設サイトは下記から閲覧できます

<https://www.kanagawa-kankou.or.jp/?p=we-page-entry&spot=395268&type=special>

## 観光ガイドの予定

行事名	日時	歩く距離	募集人員
八菅山・鳶尾山ハイキング -春のお花を満喫-	3月31日(木) 9:30~15:00	約7Km	25名(先着順)
<b>ルート</b> 上荻野バス停-八菅山-八菅神社 -鳶尾山-鳶尾団地バス停  <b>申込み先</b> 3月18日~3月23日 東丹沢七沢観光案内所 046-248-1102  鳶尾山の桜			

### 編集後記

北京冬季オリンピックの日本のメダル獲得数は、過去最多の18個となりました。選手が普段の練習の成果を、本番で100%発揮するのは非常に難しいとされています。お疲れ様でした。

本号では眞野会員にお願いし、会員がガイドをする際の心構え・話し方・注意点などについてまとめていただきました。参加されたお客様から「あつぎ観ボラの観光ガイドは面白くてためになる、また参加したい」という反響が多くなるといいですね。

編集委員 阿部 啓冊 小林 直樹 澤田 正弘 前澤 宣子